

令和4年度福井県教員育成協議会 概要

令和4年11月28日(月)
15:30～17:00
オンライン会議

1 開会

2 委員紹介

3 議事

(1) 福井県教員育成指標の活用状況について

- ・資料1-1、資料1-2に係る事務局説明

〈主な意見〉

- ・(委員) 校長のリーダーシップだけでなく、教員一人一人がリーダーシップを持って社会の変化に対応していくという視点も重要である。
- ・(委員) 資料1-2の最後の部分に「直接的に教示のできない」という文言があるが、ここでは敢えて強調しなくてもよい。

(2) 令和5年度福井県教員育成指標(案)について

- ・資料2-1、資料2-2に係る事務局説明

〈主な意見〉

- ・(委員) 「特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応」の部分から、「外国人児童生徒等に対する支援」が削除されている理由は何か。
- ・(事務局) 外国人児童生徒等に限らず、例えばヤングケアラーやLGBTQ等、支援を必要とする子どもは多様であるため、外国人児童生徒だけを明記することを避けた。併せて、別の部分に“子どもたちの多様化を踏まえ”“多様な子どもたちに対する”という文言を加え、外国人児童生徒等を含む形で多様な子どもたちに対応する必要性を表した。
- ・(委員) 「ICTや情報・教育データの利活用」の「採用時の姿」の部分に、理解だけでなくスキルの要素も明記するとよいと考えるが、大学での指導の現状はどうか。
- ・(委員) 授業としては始まったところであるため、上の学年まではなかなか浸透していない状況で、どこまでスキルが身に付いているかは難しい部分もある。
- ・(委員) 必修で情報の授業があるが、それだけでは十分ではない。教科教育法等では、何年か前からICTを活用した内容も取り入れているので少しずつ浸透している状況である。効果が見られるのは、現在在籍している学生が卒業してからになるだろう。

- ・(委員) 管理職が組織をまとめ舵取りしていくために、管理職の指標にアセスメントやファシリテーションについて明記することに賛成である。
- ・(委員) アセスメントという言葉には“評価・分析”するという意味がある。指標の文言では「…分析、共有するアセスメント力」となっており、分析という意味が重なっているため表現の再考が必要である。
- ・(委員) 「素養」のカテゴリーの文言について、管理職には“責任感”が入っているが、教員には“責任感”が入っていない。教員の方にも入れるとよい。
- ・(委員) 「生徒指導」の部分について、“指導”から“支援”への文言変更は危険な部分も含んでいる。反社会的なことに対しても支援という言葉で解決を求めるのか。学校の役割として指導しなければならない場面がある。
- ・(委員) 「マネジメント・人材育成」の「学年経営・学級経営」の部分について、ステージ1～3でどのような力を身に付けるべきかが見えづらい。例えば、子どもたち一人一人の可能性を引き出すことや活躍の場の設定を意識した集団づくり学級経営といった内容を入れてもよい。
- ・(委員) 学年経営・学級経営する場合にも、学校経営の視点が重要である。早い段階から学校経営の視点を持てるような内容を盛り込むとよい。
- ・(委員) 「ICTや情報・教育データの利活用」と「特別な配慮を要する幼児・児童・生徒への対応」について、「学習指導」と「生徒指導」の双方に係るものとして位置付けたとのことだが、このレイアウトではどちらかということ「生徒指導」の方に関係しているように見えてしまう。共通の部分ということを分かりやすくするとよい。